

在校生・卒業生・保護者・教職員

進路通信 2018/07 前期

北海道釧路湖陵高等学校進路指導部

◆特集 共通テストを考えよう！！

3 日間にわたって開催された湖陵祭はいかがでしたでしょうか。歌合戦では小道具の準備で時間がかかったことは残念でしたが、どの学年も力強いパフォーマンスを見せてくれました。雨が心配された行灯行列も成功裡に終え、趣向を凝らした閉祭式などなど充実したお祭りでした。

さて、湖陵祭が終わったということは、湖陵生最大の本分である「お勉強」の再開です。3 年生は 6 月の進路講演会で夏休みは「1 日 1 0 時間！」と言われましたね。2 年生はどの部門においてもクラスの力を存分に見せてくれましたから、当然学力向上でも「受験は団体戦！」で頑張ってくれと信じています。1 年生は 6 月に行われたベネッセの〔GPS アカデミック〕において受験が大きく分

かりつつあることを肌で感じたことでしょう。終業日は 2 6 日、1 週間以上もあります。**気持ちを切り替えること**、学祭や部活につぎ込んでいた力を受験勉強にしっかりと注いでください。

今回の進路通信は、5 月に河合塾にて行われた「高大接続シンポジウム」について取り上げます。昨年実施され本校でも参加したプレテストについて、これまでのセンター試験や個別試験などと比較しながら分析しています。このシンポジウムに参加した各教科の先生方にレポートいただきました。

なお、こうした分析会や研究会に参加している先生方の交通費の一部は、皆さんが受験や受講した模擬試験や講習の代金から支給しています。つまり皆さんからいただいたお金で参加して、皆さんにその情報を還元しているということです。また、こうした情報を進路通信にて生徒全員に還元している学校はなかなかありません。そのことを理解した上で今後の自分自身の勉強に役立ててください。

国語・現代文 吉田先生

1. 大学入学共通テストで問われている思考力・判断力・表現力

大学入試センター試験に代わる新たなテスト「大学入学共通テスト」は、「各教科・科目の等質に応じ、知識・技能を十分に有しているかの評価を行いつつ、思考力・判断力・表現力を中心に評価を行うものとする」とされている。そこで、大学入学共通テストでは、新たに記述式の問題が出題され、情報を編集・操作して考えを形成する力(思考力・判断力・表現力)が求められる。

2. 試行調査（プレテスト）問題分析

（1）問題概要

試行調査の問題の概要は、①実用的な文章、②論理的な文章、③文学的な文章である。

第 1 問（記述式問題__実用的な文章～テーマ『部活動についての要望』～）では、生徒会部活動規約、会話文、表や新聞記事などの資料を読ませ、それらを関連付けて記述させる問題が出題されている。第 2 問（マークシート式問題__論理的な文章～テーマ『日本の都市における路地の特徴と意義について』～）では、表や図が掲載されている評論文を読ませ、表や図と文章を関連させて解答させる問題が出題されている。第 3 問（マークシート式__小説的な文章～テーマ『「捨てる」という行為の意味』～）では、「幸福な王子」のあらすじを冒頭に掲載し、それを踏まえて書かれた小説を読ませ、両者の関係について問う問題が出題されている。

ちなみに、第 1 問の記述式問題は、小問 3 問で構成される大問 1 問が出題され、時数は 50 字以内、25 字以内、80 字以上 120 字以内である。

（2）大学入試センター試験との比較

第 2 問（評論文の問題）では、本文の図や表と文章とを関連付けて解答させる形の問いが出題され

てはいるものの、問われている事柄にちいて書かれている文章中の箇所を踏まえて判断すれば正解が選べるものである。難易度は現行の大学入試センター試験の評論文の問題文と比べて同程度だと言える。

第 3 問（小説の問題）では、一つの小説を読んで答えるという従来のセンター試験とは異なり、有名な「幸福の王子」という文学作品のあらすじとその作品を踏まえて創作された小説を題材とし、両者を関連付けて答える問題が出題されている。二つのテキストの関係を問うような問題が出題された点は新しい傾向といえる。

（3）個別試験（一般選抜）との比較

私立大学の個別試験で複数のテキストを比較したり、関連付けたりして回答する問題を作成しているのは、早稲田大学の文化構想学部などであるが、大部分の大学の入試問題は単一のテキストから出題されている。また、実用的な文章から出題しているような私立大学もほとんど見受けられない。国公立大学においても個別試験で複数のテキストを比較したり、関連付けたりして回答する問題を作成しているのは、岩手大学、信州大学、佐賀大学といった少数の大学に限られている。

3. 大学入学共通テストを踏まえた個別試験（一般選抜）のあり方

現状では各大学の個別試験がどのように共通テストに影響されるかは不透明であるが、文部科学省は、大学入学者選抜改革推進委託事業として、北海道大学を中心としたグループに委託して、個別試験（国語）が測定する資質・能力の分析・評価方法に関する研究を行っているこうした仕組みが何らかの影響を国公立大学の 2020 年度以降の入試に影響を与えることは充分考えられる。

4. 今後の課題

今後は、記述式であれマークシート式であれ、**文章と図表、文章と文章を比較し、関連付けて解答するような問題に多少なじんでおく必要**がある。高度な思考力・判断力・表現力を問う問題になっているわけではないので、多少の訓練で十分に対応できるようになるはずである。また、評論とは異なる、説明的な文章をが出題される可能性があり、教科書に掲載されている文章とは異なる種類の文章をも視野に入れた学習を行わなければならないかもしれない。

記述式問題については、身近な話題に即した実用的な文章から出題される公算が高いので、受験者はこの種の文章にも多少なじんでおく必要があるだろう。具体的には、教科書に掲載されている図表を用いて、図表を読み取る訓練や図表と文章とを関連付ける訓練が挙げられる。そのためにも、国語だけでなく、地理、理科などの授業でも、多様な図表の読み取りを意識することが欠かせない。また、複数のテキストを関連付けて考える姿勢を養うことも必要である。

日頃から、身近な問題に対して関心を向け、グループ討議やプレゼンテーションなどを通して、人の話を聞き、理解し、自分の意見を述べ、それを文書化するなどの学習が今後ますます重要になってくるだろう。

数学 高橋先生

共通テストについて

・昨年 11 月の試行調査の数学 I A は時間 70 分、問題は 32 ページになっていました（かなり大変な分量です）。

→最近のセンター試験でも数学 I A の問題ページ数は増えています。

（2，3 年生も心得ておきましょう）

＊大学入試センターによると、「共通テストでは、日常生活の中から課題を発見し解決方法を考えたり、資料やデーターをもとに考察したりする力を重視する」

新傾向の問題タイプについて

（1）会話型・・・太郎さんと花子さんの会話を読みながら、問題を解いていく。

解いていく過程で「計算」，「論証の正誤を判定」，「証明」などの問題

（2）取捨選択型・・・問題文に余分な情報を含む問題

（3）活用型・・・実生活に関連付けた問題

（4）証明型・・・証明問題を穴埋め、記述で行う問題

マーク方式の変化

「すべて選べ」、「二つ選べ」というタイプの問題が新しく出てきた。試行調査では全て選ぶ問題

が2問あり、ともに正答率が低かった。

- ・選択肢数5、正答二つの問題で正答率 3.2%
- ・選択肢数6、正答四つの問題で正答率 0.8%

マーク方式の問題について

- ・解答群から当てはまるものを選ぶ問題がありました
→解答群が8個あるので、ひとつひとつの解答群を当てはめて考えるのではなく、最初から答えになるものが分かっているといけなから中途半端な力しなければ正解できない（しっかり学習しなければいけない）
- ・数学Ⅱ B 数列の問題（漸化式を解く問題）で、2通りの考え方を要求しているのが今までにはない問題（しっかり学習しなければ対応できない）

難易度について

大学入試センターによると、「試行調査では平均正答率5割を目指して作問し、支障がなければ本番でも同様の難易度とする」となっているが、昨年 11 月の試行調査ではかなり難しい問題も出題されている（2018 年京都大学理系で出題された問題とほとんど同じ問題があった）

記述式問題の分析について

- ①無解答の答案が多かった（誤答よりも無解答の割合が高かった）
＜理由として考えられること＞
- ・問題の難易度が高かったから
 - ・どのように解答を表現してよいか判断できなかったから
 - ・時間的余裕がまったくないため、記述式問題を後回しにしたため
- ②正答の割合が極めて低かった（3問の正答率は、2.0 %, 4.7 %, 8.4 %）
時間的余裕がまったくないうえに、部分点がなく正解か不正解のどちらかになるため
- ③問題の解法の中でいくつかの式が示され、その中で修正が必要な番号を答えて修正した式を書かせる問題があった。

記述式問題の採点について

- ・部分点がない。そのため少しの書きミスでも 0 点となります。

例えば、

- ・ $ax^2+bx+c=0$ の y 座標は・・・（表現がおかしい）
- ・「傾きが急」などのように数学の表現として正確でないもの
- ・ $\cos(180 - B)$, $\cos ABC$, $BC \cdot (-\cos B)$ などはすべて「数学的に誤った記述」として 0 点になってしまう。
→正しくは $\cos(180^\circ - B)$, $\cos \angle ABC$, $BC \cdot (-\cos B)$

英語 林先生

1. 大学入学共通テストで問われている思考力・判断力・表現力

国際的基準規格 CEFR を採用し、点数刻みではなく、各グレードで設定された場面状況において、そこで必要とされる難易度の語句を用いることができ、かつ適切に言語を運用できるかを図っている。

また河合塾のレーダーチャートによると、リーディング問題では、センター試験と同様に試行調査（プレテスト）でも「思考力・判断力」の下位項目である「情報収集・分析力」については問うているが、「課題発見能力・構想力」および「表現力」については比重が高くない。さらに、両者を比較すると、センター試験の方が「論理展開力」が高い（第3問や第4問Aにより）が、試行調査問題の方が「課題発見・構想力」が高い（第5問でプレゼンテーションの準備のために記事を読んでメモを完成させる問題により）。

2. 試行調査（プレテスト）問題分析

（1）全体分析

センター試験と比べると、総語数は 1,000 語多いが、本文の語数は 3,000 語とほぼ同じで、図表および設問の語数は2倍である。内容面では、①発音、アクセント、語彙整序一切含まれない「読解力」により焦点を当てた問題構成、②実際のコミュニケーションを想定した場面設定、③ CEFR レベルの A1 程度から B1 程度までの出題、④複数の情報を用いて思考・判断させる問題、⑤当てはまる選択肢を全て選択させる問題、であった。

（2）1. 試行調査（プレテスト）問題分析 筆記〔リーディング〕

第1問A：センター試験 第4問Bを易しくした問題。

第1問B：センター試験 第4問Bとほぼ同じタイプの問題。

第2問A：センター試験 第4問Bとほぼ同じタイプの問題。「食ベログ」…1人称主語の省略などが見られる場面状況が現実的

第2問B：センター試験 第3問Bの発話者を削除したタイプの問題。

第3問A：センター試験 第5問とほぼ同じ問題。

第3問B：セールスマンの書いた新聞のコラムを読み、文章の概要と、出来事の順番を把握する能力が求められている。

第4問：センター試験第4問Aおよび第5問とほぼ同じレベル。

第5問A：2012 年度まで東京大学の 1(B)で同形式の文補充問題が出題されていた。

第5問B：センター試験では出題されたことのない新傾向の問題で、問2では当てはまる選択肢を全て選択させる問題。

第6問：センター試験では出題されたことのない新傾向の問題。

2. 試行調査（プレテスト）問題分析 〔リスニング〕

第1問A：身の回りの事柄に関して平易な英語で話される短い発話を聞いて、それを把握する力を問う問題。←文法を耳で聞いて理解できるか・スピーチアクトを理解できるか

第1問B：身の回りの事柄に関して平易な英語で話される短い発話を聞いて、それに対応するイラストを選ぶことを通じて、発話の内容の概要や要点を把握する力を問う問題。
←四択文法問題からの脱却

第2問：身の周りの事柄に関して平易な英語で話された短い対話を、場面の情報とイラストを参考にしながら聞いて、必要な情報を把握する力を問う問題。

第3問：身の回りの事柄に関して平易な英語で話される短い対話を、場面の情報を参考にしながら聞いて、概要や要点を目的に応じて把握する力を問う問題。←計算問題からの脱却

第4問A：説明を聞いて、図表を完成させたり、分類や並べ替えをすることを通して、必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握する力を問う問題。ここでは、学生が好む間食に関する調査結果報告や英語キャンプ参加者のチーム分け方法の説明を聞く。←ノートテイキングの力

第4問B：複数の情報を聞いて、状況・条件に基づき比較して判断する力を問う問題。ここでは、複数のボランティアスタッフ応募者の自己紹介を聞いて最も条件に合う人を選ぶ。←情報収集の力

第5問：身近な話題や知識のある社会的な話題に関する講義を聞いて、メモを取ることを通じて概要や要点を捉えたり、聞き取った情報と図表から読み取れる情報を組み合わせて判断する力を問う問題。ここでは、福と環境の関わりに関する講義を聞く。

第6問A：身近な話題や馴染みのある社会的な話題に関する対話や議論を聞いて、必要な情報を把握したり、それらの情報を統合して要点を整理、判断する力を問う問題。ここでは、修学旅行についての対話を聞いて、話者の発話の要点を選ぶ。

第6問B：身近な話題や馴染みのある社会的な話題に関する対話や議論を聞いて、必要な情報を把握したり、それらの情報を統合して要点を整理、判断する力を問う問題。ここでは、炭水化物の摂取に関する複数の意見を聞いて、それぞれの話者の立場を判断したり意見を支持する図表を選ぶ。

3. 今後の指導など

（1）現在の受験生がこの試行調査問題を受ける場合の課題

筆記〔リーディング〕では、スキミングなどの速読力、実際の場面で運用できる文法力やコミュニケーション力、および多様な声を聞き取る力（アメリカ英語以外のイギリス英語やアジア系英語など）が必要。

（2）その際に必要となる指導

筆記〔リーディング〕では、高校1年のどこかで概念化して文法を教える必要がある。リスニングでは、高校1年から精読をさせるとともに、音声面からの文法指導（聞いて理解し活用できるところまで）、メモを取る、別の表現で言い換える、比較検討し判断するといった指導が必要。